

Moshi-mosu

もっと知れば、もっと好きになる！長岡京市の歴史・文化財

Vol. 8

Take Free



中山修一氏作成「長岡京復元地図」

かつてない暑い夏がやってきた。夏の広く大きな青い空が好きだ。夕立の空にかかる虹は七色だ、と思っていた。でも、よくよく調べてみると、インドネシアの一部では四色、アメリカやイギリスでは六色、アフリカの一部では八色とされているようだ。日本では、赤色は一般的に情熱や勝利をイメージするが、世界では死や罪をイメージするところもあるらしい。思い込んでいた出来事やイメージ、そんな感覚をリセットしてこのまちの空気や景色に触れてみると、見えない何かが迫ってくる気がする。弟国宮遷都 1500 年記念スタンプラリー「長岡京文化財巡り 2018」。まだまだ実施中です。



The hottest summer came over to Japan. We like the summer big blue sky. The rainbow to appear in the sky of the evening shower is seven colors...we thought so. But on study the number of colors of the rainbow was different in an area. In Japan, the red means victory or passion. In the world, the red has the area meaning death or a crime. When we reset belief and an image and touch scenery and the air of the town, we can find something new.

長岡京発掘の父



Shuichi Nakayama (1915-1997)

長岡京市をはじめとする乙訓地域には、今から 1234 年前、奈良の「平城京」から京都の「平安京」に移るわずか 10 年の短い期間でしたが、「長岡京」という都がありました。しかしながら、その都の造営についての資料が少なく、「幻の都」と言われていました。ふるさとを愛し、この「幻の都」の解明に生涯をささげたのが、中山修一さんです。

教員の道に進むも、歴史にひかれ、もっと学びたいと京都大学へ。

中山修一さんは、大正4年(1915)に現在の長岡京市久貝に生まれました。子どもの頃は体が弱く、体育の授業はしばしば体調不良で休むほどでした。そんな中山さんが歴史の道に進むきっかけとなったのは、小学校の教頭先生をはじめとした先生との出会いです。そして、身近にあった恵解山古墳や勝龍寺城などに触れることで、歴史への興味はますます強くなっていきました。その後、京都府師範学校(現在の京都教育大学)を卒業し、小学校の教師になり、向日市や長岡京市の小学校で教鞭をとります。

教壇に立ちながら、中山さんはさらに勉強したいという思いが強くなりました。すると、タイミングよく、京都大学が受験の門戸を広げており、京都大学文学部史学科へ入学します。大学では、考古学の授業にも触れ、条里制(8世紀ごろの土地区画方法)や条坊制(都市の東西南北に走る道路での土地区画方法)といった古代の区割りなども学びました。

こうした多くの出会いやチャンスにも恵まれながら、大学で学んだ歴史地理学が、その後の長岡京発掘調査への大きな原動力となっていきます。

「長岡京」への挑戦へ、手作りの条坊復元図。

京都大学大学院に進んだ中山さんは、地理学教室の助手から『乙訓郡史』の奈良時代の項目について、執筆に協力してほしいと依頼を受けます。この頃すでに「長岡京」の都について、強い興味を抱いていた中山さんは、すぐさま執筆を引き受けます。

当時、「長岡京」は「幻の都」と言われており、具体的な歴史資料や論文がほとんどない状況でした。しかし、中山さんは、調査を進めていくうちに、幻や計画だけの都ではない、平安京と同じような都が確かにあったんだと強く思うようになっていきました。

それから、電車での通勤の行き帰りに、西向日駅で下車

し、田んぼのあぜ道を歩き、瓦が出ていないか、土器は出ていないか、毎日毎日遠回りをして「長岡京」へのヒントを探し続けました。

あるとき、農家の人から聞いた話や田んぼの違いに気づき、「長岡京」は条坊制の都だったのではとひらめきます。その後、その疑問をはっきりさせたいとの思いから、平安京の古地図を参考にしながら、手作りの条坊復元図を4年がかりで完成させていきます。

当時はなかなか相手にされなかったものの、この条坊復元図は、その後の発掘調査に大きな影響を与えていくことになるのです。

その後の発掘調査で、「長岡宮」を発見。史跡公園へ整備。



▲発掘調査現場にて(昭和42年ごろ)

昭和29年、「長岡京」の発掘調査に初めて着手し、翌年に朝堂院南門跡を発見。それまで文献上の存在だった「長岡京」が実在したことをついに証明したのです。

これ以降、小安殿、大極殿跡など重要な遺構を次々と発掘し、長岡京中枢部の全容を明らかにしていきます。昭和39年には、「長岡宮」周辺が国史跡として指定されその後史跡公園として整備されていきます。

昭和59年には、長岡京遷都1200年記念事業が市民参加で盛大に取り組みられ、「長岡京」が実在した都として全国に広く知られるようになりました。また、しだいに歴史の教科書などにも記述されるようになっていきました。

ふるさとを愛し続けた思い。

平成6年、78歳のときに心筋梗塞で倒れ、一時闘病生活を送ります。しかしながら、その後も、「長岡京」発掘や乙訓の文化財への情熱は絶えることがありませんでした。平成9年(1997)、中山さんは81歳で亡くなります。

晩年、新聞の取材で、中山さんは次のように語っています。

「発掘された長岡京の遺跡で、今日まで史跡指定されたのは長岡京全体から見ればごくわずかで、この保存面積は僕としては不満である。」

「都があったということは大きい。それが動機で子どもたちが歴史を好きになったり、人生を考えたり、郷土を愛する心が芽生えたりもする。」

訪ねてみよう！もっと知ろう！ 「中山修一記念館」

入館無料
10～16時
火曜日休館



■所在
長岡京市久貝3丁目3-3
* 阪急西山天王山駅下車
徒歩約10分
* 阪急バス久貝バス停下車
徒歩1分

◆問い合わせ
☎(075)957-7176

長岡京の歴史解明に一生を捧げ、多大な業績を残した故中山修一氏のご遺族の厚意により寄付された建物を利用し、氏の足跡と発掘調査研究の成果を一目で見られる施設として平成14年に開館しました。中山修一氏の功績を顕彰するとともに、長岡京をはじめとした郷土学習の拠点施設としています。

スタンプラリー「長岡京文化財巡り2018」開催中！
中山修一記念館はゴールポイントです。ぜひご参加ください。

参加しよう！

Event イベント情報。

1

今なおつづ「長岡京」発掘調査！



会場では発掘調査で出土した主な遺物の実物も展示します。

～長岡京市埋蔵文化財センター～ 『調査成果報告会 2017』

昨年度に実施した発掘調査のなかから、長岡京跡の貴族の邸宅跡や条坊道路・大規模な溝、そして神足遺跡、乙訓寺など、貴重な成果があった場所を選びすぐって紹介します。

- 日時 平成30年9月8日(土) 午後2時から4時
- 場所 長岡京市立中央公民館 2階 講座室
- 講師 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター職員
- 主催 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
- 問い合わせ 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター ☎075-955-3622

申込不要

先着 70 名

入場無料

2

大河ドラマ決定！光秀を知る！



本能寺の変とは違った、細川ガラシャの父としての光秀像に迫ります。

～長岡京市歴史講演会～

『明智光秀と細川ガラシャ父としての光秀像』

- 日時 平成30年9月2日(日) 午後1時30分～3時30分
- 場所 長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室
- 講師 亀岡市文化資料館 前館長 黒川孝宏さん
- 主催 NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会
- 共催 長岡京市教育委員会
- 後援 長岡京市観光協会
- 問い合わせ NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会の高橋さん ☎075-955-8810
長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

申込不要

先着 100 名

資料代 300 円

弟国宮(おとくにのみや)遷都1500年記念事業 (2018年1月)

歴史再発見1500年を盛り込みます



ことしは、「弟国宮遷都 1500 年」！
そして、「長岡京市歴史再発見の年」！

記念イベント「弟国宮遷都1500年記念事業」をはじめ、歴史再発見のための情報を長岡京市のホームページで発信しています。

また、「長岡京市歴史日めぐり」も、好評連載中(毎週更新)です。

ぜひ、ご覧ください。

長岡京市 弟国宮 検索

弟国宮遷都 1500 年記念スタンプラリー「長岡京文化財巡り 2018」を開催中！
ホームページからスタンプラリーの台紙やマップがダウンロードできます。

お詫び：お便りコーナーはお休みします。ご了承ください。

『Moshi-mosu』vol.8

発行：長岡京市教育委員会生涯学習課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号／平成30(2018)年8月